

ハロー フレンズ



ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2026年 1 月号 (年3回発行) 第170号

2026年新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、希望に満ちた2026年の幕開けを健やかに迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。日頃より、ふじみの国際交流センターの活動に温かいご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨今は世界情勢の変化と国際的な人の移動の活発化に伴い、日本を訪れる外国人が急増しております。国内全体だけでなく、私たちの地域においても観光、留学、就労など、さまざまな目的で来日される方が増え、多文化が共に生きる社会の実現はこれまで以上に重要なテーマとなってきました。その一方で、言語や生活習慣の違いによる不安や孤立を抱える外国人住民も少なくありません。こうした状況の中、当センターは「互いを知り、尊重し、支え合う地域社会」の実現に向け、日本語教室や生活相談、多文化交流イベントの充実に努めてまいりました。

2026年も、急速に進む国際化の流れを正面から受け止め、地域全体で“共に生きるための仕組みづくり”をさらに推し進める一年にしたいと考えております。多様な背景を持つ人々が利用しやすい交流の場づくりを継続するとともに、外国人の来日増加に伴い、初めて日本で生活を始める方々へのサポートにも注力してまいります。一方でNPOだけでは解決できない量的なことや質的なことは行政にも働きかけてまいります。

本年も、地域の皆さまと手を携え、誰もが安心し、互いに尊重される地域の実現を目指して、私たちは心を込めて取り組んでまいります。皆さまにとって2026年が健康と喜びに満ちた一年となりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

(理事長 室井伸幸)



インターンシップで広がる世界

FICECのインターンシップ研修プログラムはレクチャー部門、実習体験部門があり、それを踏まえてワークショップ及びケーススタディーを実地しています。外国人が直面する言語、偏見、地域、子育て、慣習、仕事等の困難を具体的に分類した後、疑似体験を通して理解を深める作業をしています。

2025年のインターンシップ研修は日本社会事業大学の必修課程一貫として7月の約一カ月に及ぶものと、聖路加国際大学院看護学研修科生の卒業論文対象で10月の4日間の研修を実施しました。

具体的にはFICECのメイン事業である日本語支援、外国ルーツの小・中学生対象の学習支援及び15歳以上の就学支援、小学校に出向いて

の国際理解講座などの取り組みに参加し、体験しました。又、バングラデッシュ、ネパール、フィリピンの方々との懇談会を踏まえてケーススタディー、ワークショップを実施しました。

インターンシップ研修では研修生の目的に沿ったプログラムを提供しております。ぜひ一度ふじみの国際センターに見学にお越しください。（インターンシップ担当 三宅万里子）



国際子どもクラブ「おたのしみ会」レポート

12月13日に国際子どもクラブの「おたのしみ会」を行いました。子ども15人、スタッフ8人が参加して、クイズにゲーム、ぶんぶんごま作り、最後にはプレゼント！大人も子どもも楽しくはじめて、文字通りのお楽しみ会になりました。

（国際子どもクラブ担当 進 洸子）



富士見市国際フォーラムに参加しました

令和7年10月4日(土曜日)、富士見市民文化会館キラリふじみで開催された国際フォーラム2025に参加しました。当日は、雨模様で足元の悪い中でしたが、330人以上の来場者があり、二胡演奏、フィリピンダンス、タヒチのフラダンス、太鼓の演奏など例年どおり盛況なイベントとなりました。FICECからは、わいわいワールドトークの3つのグループの進行を務め、日本語の学習者を中心とした外国籍の6名が参加し、日本の食べ物、外国人に進めたい旅行先、有名なお祭りなどをテーマに一般参加者とともに楽しく会話の時間を共有しました。また、世界の言葉で書いてみようコーナーでも、子どもたちを中心に好きな言葉を書きました。「様々な国の文化を知るとともに、自国の文化についても新たな気づきを得る場とする。」を趣旨としたフォーラムのイベント

にこれからも外国籍の方々とともに参加したいと思います。(日本語教室担当 塚本秀樹)



国際理解講座レポート

言葉よりも先に、心が動く。子どもたちが教えてくれた多文化共生

ある日、富士見市内の小学校の先生から相談の電話をいただきました。それは「近くに住む外国の方とパーティーをしたい」という、依頼でした。修学旅行での「話せなくて悔しかった」という経験を、「次は友達になりたい!」という前向きなエネルギーに変えた子どもたちとその気持ちとその気持ちを大切に、叶えてあげたいと思う先生の気持ちが伝わりました。

当日、FICECからは、高校入試のために通っているネパールの若者たちが参加しました。言葉はあまり通じなくても、一緒に手作りのおにぎりやみそ汁を作って食べたり、日本の伝承遊び、コマやけん玉に熱中になり、もうそこには「壁」はありませんでした。

そして、ふじみ野市の中学校でも、「韓国語と韓国遊び」についての国際理解授業がありました。韓国文化を通じた楽しい交流ができました。知識として学ぶだけでなく、一緒に笑い、一緒に遊ぶ。私たち大人が複雑に考えがちな多文化共生の「正解」を、子どもたちはその屈託のない笑顔ですでに示してくれているようです。

(国際理解講座担当 安銀柱)



日本で暮らす外国人と地域のこれから

－入管法の基礎から制度の動き、地域の共生まで－

埼玉県行政書士会 東入間支部
行政書士 戸田 公久

近年、地域で暮らす外国人が増えるなか、行政手続きの複雑さや情報不足、生活習慣の違いなどから、外国人は日常生活のさまざまな場面で困難に直面しています。

特に、教育・医療・就労・地域生活などの分野で相談が増えており、制度理解の必要性が高まっています。

こうした現状を踏まえ、「制度を知る」「現状を知る」「地域として支える」という三つの視点から生活相談勉強会を開催しました。

このレポートでは、今年実施した3回の勉強会の内容を振り返り制度の理解を広げて相談の実践につなげたいと思います。

第1回勉強会

「入管法の基礎知識」

－外国人はどうやって日本に住んでいるの？－

初回の勉強会では、外国人の在留制度を理解するために欠かせない入管法の基礎を取り上げました。

- ・在留資格の役割と種類
在留資格は活動内容ごとに付与され、許される活動範囲も異なることを整理しました。
- ・資格外活動許可の制度
本来の活動範囲を超えてアルバイト等を行う際には許可が必要であることを確認しました。
- ・在留カードと届出義務
住所変更届、所属機関の変更、在留期間更新など、地域生活に直結する制度を学びました。
- ・永住許可や難民申請、退去強制の考え方
報道で耳にすることはあっても内容が理解しづらい制度について、誤解の多いポイントを中心に基礎から整理しました。

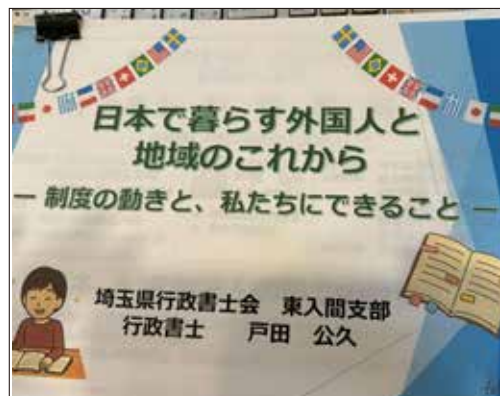
第2回勉強会

「日本で暮らす外国人と地域のこれから」

－制度の動きと地域課題の理解－

2回目の勉強会では、日本の人口動態や政策の動きに触れながら、地域社会における外国人住民の現状を幅広く取り上げました。

- ・外国人受入れ政策の最新動向
国が公表した論点整理を参考にしながら、経済、教育、社会保障、治安など多面的に検討しました。
- ・地域で見られる課題の整理
外国人児童生徒の増加、医療・国保加入、生活保護、生活ルールをめぐる誤解などを統計資料とともに紹介しました。
- ・制度と生活のギャップ
情報が届かない背景や、手続きの複雑さによって支援につながらない現状を共有しました。
- ・私たちにできること(三つの視点)
やさしく伝える、地域で見守る、相談先につなぐという三つの方向性を確認しました。



第3回勉強会

「外国人との「秩序ある共生社会」の実現に向けて」

現在、国では「外国人と共生しながら社会の秩序をどのように保つか」という観点から制度の検討が進められています。

この考え方は、今後の入管制度の方向性にも影響するとされており、地域で支援に関わるうえでも重要な視点です。

第3回勉強会では、この最新の動きを踏まえ、より実務に近い内容を確認しました。

- ・外国人受入れ政策の最新動向

最新の国の検討資料をもとに、外国人受入れの方向性や制度見直しのポイントを確認しました。

- ・入管法改正の背景と考え方

制度の不適正利用や安全確保など、改正の背景にある課題と基本的な考え方を整理しました。

- ・相談現場でみられる課題（就労、生活、家族、教育など）

多様な相談事例から、現場で起きている課題を具体的に確認しました。

- ・行政、学校、地域団体の連携と支援のあり方
情報共有や役割分担など、関係機関が連携して支援するために必要なポイントを検討しました。

- ・地域が果たす具体的な役割と行動例
困りごとの早期把握や支援先へのつなぎなど、地域で実践できる支援の方向性を整理しました。

制度の変化と現場の課題を結びつけながら、地域でできる支援の方向性を学びました。

3回の勉強会を通じて明らかになったのは、外国人支援には「制度の理解」と「地域のつながり」の両方が不可欠であるという点です。

行政書士として、そしてFICECの一員として、制度と生活の間にある情報の壁や手続きの壁を取り除き、外国人が日本を「第二のふるさと」と感じられる地域づくりに貢献していきたいと考えています。

勉強会や情報発信を通じて、今後も多文化共生の推進に取り組んでまいります。

ご参加いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。



「想定の上のペースで進む外国人の流入」

「想定の上のペースで進む外国人の流入～体系的な移民政策の確立は必須～」という論文が今年の3月、「世界経済評論」に発表されました。筆者は専修大学経済学部教授の森原康仁さんという方でした。その根拠は2024年末の在留外国人が約372万人となり、前年比で10.5%の増加となっているところにあります。そして外国籍住民の割合は3%ということになります。

埼玉県の外国籍住民数は、多い順に川口市=48,161人(7.92%)、さいたま市=34,704人(2.57%)、川越市=11,322人(3.20%)、蕨市=9,530人(14.26%)、越ヶ谷市=9,178人(2.65%)などとなっており、県全体では3.6%にあたる26万人の外国人が生活しています。

2市1町の外国人も「毎年10%超」増加

FICECは日本語教室や国際子どもクラブの活動を通じて、ふじみ野市、富士見市、三芳町の外国人の急速な増加を実感し、2市1町国際化会議で強い問題提起を行ったところです。

実際に、ふじみ野市の外国籍住民は3,669人で、前年の3,269人から400人・11%増加しています。そして富士見市12.6%、三芳町は13.0%で、全体の人口に占める外国人の割合は増加しています。その結果、ふじみ野市の外国人の比率は3.2%、富士見市3.94%、三芳町は3.2%なので、川口市や蕨市ほどではありませんが人口動態に大きな影響があるのは間違いありません。

全体の人口に占める外国人の割合と 2023 年からの人口の増減

	2023 年			2025 年			増減	
	人口	外国人	割合	人口	外国人	割合	人口の増減	外国人の増減
ふじみ野市	114,156	2,944	2.58%	114,559	3,669	3.20%	403	725
富士見市	112,830	2,886	2.56%	113,278	3,608	3.19%	448	722
三芳町	37,681	960	2.55%	37,350	1,085	2.90%	-331	125

何が起きているのか

〔メリットと思われること〕

- ・日本人だけではまかなえない労働力不足への対応
- ・外国籍住民の流入で少子高齢化による人口減少を補う
- ・資金力がある購買行動で経済の活性化

〔デメリットと思われること〕

- ・日本語が分からない住民の増加で地域でのトラブル増加
- ・円安効果もあり割安感のある日本の物件が外国人に買われ、投機的売買も見られる。
- ・これまで日本人が経験したことのない状況（人口の10%を超える外国人との共生、日本語が分からない児童生徒の拡大）に対応でき

ない問題。

- ・学校現場での対応力不足による混乱や戸惑い
- ・1万数千人を超える難民申請中(仮放免)の外国人への対応不足からくる貧困問題
- ・オーバーツーリズムによる観光地での「密」やマナー違反

国立社会保障・人口問題研究所は2023年に「日本の総人口は2070年に8700万人まで減り、1割は外国人になる」と推計しましたが、現在、外国人は想定の上のペースで急増しています。

この事実をしっかり受け止める必要があります。「10人に1人が外国人」という地域を想定した日本語教育の充実、共生の在り方の検討が必要だと思います。（文責 永田信雄）

お知らせ

FICEC BAZAAR バザー

1/25 日

じかん 11:00～15:00

ばしょ FICEC

FICECバザーを開催します。

冬服アウター・バッグ、食器、アクセサリー
文具・生活用品・雑貨・子ども用品など格安
にしてお待ちしています。

ピンボールもできます！

【※駐車場はありません】



ふじみの国際交流センターのサポーターになってください

マンスリーサポーター募集中!!

在留外国人に多言語での情報提供や、生活相談、日本語学習の場が必要と思う方、在留外国人の孤立を防ぐための活動が必要と考えている方や企業のみなさま、またボランティアをしたいけれど時間のない方はマンスリーサポーターとなってください。

一人でも多くの方々の支援をいただくことでFICECの事業を継続して行くことができます。

◎マンスリーサポートの流れ

①HPの申込フォーム、電話、FAX、ハガキ等でご連絡ください。

住所 〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡 5-4-2 5

ふじみの国際交流センター マンスリーサポート係

電話 049-256-4290 または 049-269-6450 FAX 049-256-4291



②ご連絡いただいた方に、ゆうちょ銀行指定の自動払込申込書(3枚綴り)を送付します。

③ゆうちょ番号・寄付金額をご記入の上、押印して、返信用封筒にてご返信ください。

④毎月25日にゆうちょ銀行口座から自動引き落としで対応させていただきます。

◎スポットサポーター募集(不定期、または一回のみのサポート)

郵便振替口座(口座番号:00110-0-369511、

口座名:[特活]ふじみの国際交流センター)

または、現金書留でお願いいたします。



FICECの活動をご支援ください 会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員…正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

●FICECを財政的に支える会員…賛助会員

賛助会員は、FICECを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、FICECのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座: 00110-0-369511
口座名: [特活] ふじみの国際交流センター

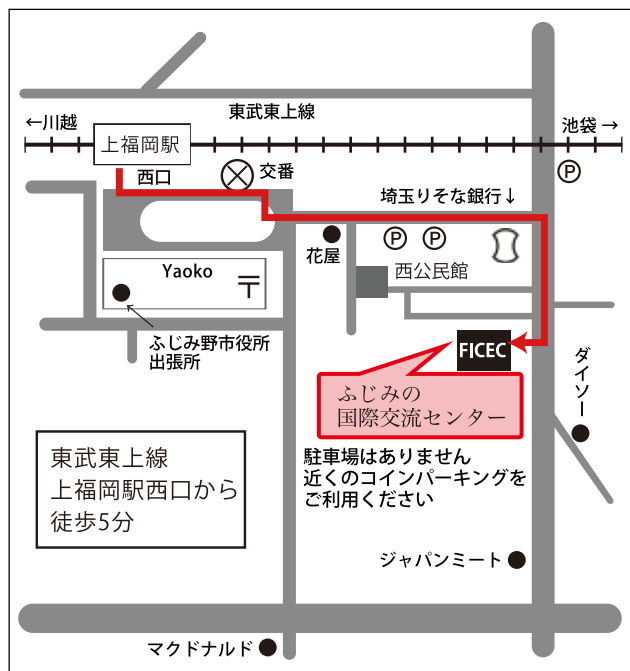
外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00

電話: 049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら
FICECをご紹介します。

※コピー代など料金がかかる場合があります



埼玉県指定・認定特定非営利活動法人

ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25

TEL: 049-256-4290 FAX: 049-256-4291

生活相談専用電話 049-269-6450

ご寄付をいただいた方々 ご支援ありがとうございます

●2025年1月1日～2025年12月15日(敬称略)

秋本ノエミ、阿久津俊昭、穴沢エミリン、新井順子、新井良司、安銀柱、飯島美穂、石井絆、石山達也、伊藤愛、上島直美、牛込亜紀子、大野渉、大場弥太郎、岡本直久、小熊千寿子、尾崎功、折橋美義、柏木ひろみ、片倉ミン、(株)吉岡、神田順子、北林ジャネット、ギャレット三宅万里子、栗嶋三千代、栗田吉雄、小林暁美、小松佳子、酒井有香、佐久間ひかり、佐藤義治、芝山喜巳子、島田敏郎、島原亜里、ジャリアヌソルン・ジェット、進洸子、スチン、ゾシスザン、高橋博、高橋真梨子、竹名潤一、チンテイヴァン、塚本秀樹、豊枝洋子、内藤忍、野添直美、長谷川正江、藤澤園子、藤巻則幸、水野毅、茂木久美子、森田有美子、矢澤美紀、山畑博子、吉井ジュリエッタ、和田弘、匿名2名

〈マンスリーサポーター〉

遠藤慧子、太田政男、末吉智子、仲野京子、野田恭三、吉野高章、匿名1名

※埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センターに寄付をしてくださった方は、税金の優遇を受けることができます。

ふじみの国際交流センター サービス案内 (詳しくはお問い合わせください)		
外国人 ゲスト派遣	国際理解教育	3,000円+事務費+税
	外国料理教室	5,000円(材料費別途)+税
講師派遣	多文化共生講座	20,000円+税
	ボランティア講座	(活動運営のため協力ください)
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	
編集・出版	多言語による情報誌・ガイドブック・チラシなどの制作	
翻訳	婚姻関係、ビザ申請、履歴書等	A4 3,000円/ページ+税
通訳	半日6,000円+税	
見学・研修(資料代として)		1,000円/人、日+税

※別途交通費がかかる場合があります